

2021年度 グッドプラクティス事例 募集要項

1. 目的 優れたボランティアコーディネーション実践を“見える化”することでボランティアコーディネーターが自身の実践を客観的に振り返る機会を提供するとともに、ボランティアコーディネーション力に対する社会的な認知と普及につなげる。
2. 内容
 - 1) **グッドプラクティス認定部門**
ボランティアコーディネーション力が総合的に発揮された優れた実践
 - 2) **キラリと光るアイデア部門**
ボランティアコーディネーションの場面での創意工夫やしかけ
(短期的な取り組みでも、コーディネーションの一場面、一プロセスにおいて行ったものでも OK)
3. 募集方法
 - 1) 2) いずれも「自薦」「他薦」「情報提供」により募集する
 - A. 自分（組織）が取り組んだ実践概要をレポート
 - B. 自分の知っているおススメ実践事例を紹介
 - C. 新聞記事、インターネット、業界誌、広報誌、論文掲載など、既存の媒体から「これはおもしろい！」という実践事例を見つけて紹介
4. 応募方法 エントリーシートに取り組み概要を記載して、JVCA 事務局に Eメール添付で送付する。
(A 4判 1枚程度：様式指定) →送信先：coco@jvca2001.org
5. 応募対象 一般に公募する
6. 募集期間 2020年 9月27日（月）～10月31日（日）
7. 審査の流れ
 - ①エントリーシートをもとにグッドプラクティス認定システム化委員会にて書類選考（第1次審査）
 - ②審査を通った団体へのインタビュー（取材）の実施
 - ③実践の文章化（事例集掲載を想定）
 - ④事例をもとに委員会で認定事例を選考→理事会にて承認（第2次審査）
 - ⑤事例提供者による加筆および修正
 - ⑥『グッドプラクティス事例集 VOL. 5』の発行
8. 審査のポイント（認定部門）
 - 1 級検定で提案する「包括的なボランティアコーディネーション」の視点にもとづいている
 - ①ボランティアの主体的な参画やモチベーションアップを意識して工夫や仕掛けをしている
 - ②一つの組織や既存の関係機関の枠にとらわれず、分野やセクターを超えて連携・協働している
 - ③問題解決へのビジョンをもち、ボランティア（市民）が関わる積極的な意味や役割を明確にしている
 - ④組織や事業にボランティアを受け入れるコーディネーションと、間に入って人や組織をつなぐ中間支援のコーディネーションの力をバランスよく発揮している